

審査委員会報告書

(課程博士用)

報告番号	甲 第 1509 号	授与年月日	2024 年 3 月 10 日
学位	博士 (看護学)		
氏名	生年月日	昭和 52 年 1 月 13 日 生	
	氏名 (国籍)	平野 美樹	
論文題目	心不全患者の介護者に対するセルフケア支援教育プログラムの構築		
主論文冊数	1 冊		
審査委員会委員	(氏 名) 主査 北里大学 教授 杉本 知子 北里大学 教授 久保 五月 北里大学 教授 長尾 式子		
論文内容要旨 審査結果の要旨 試験結果の要旨	別 紙 1 別 紙 2 別 紙 3		
審査委員会の意見	審査の結果、博士 (看護学) の学位を授与できると認める。		

- 【注】 1. 報告番号、学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審査後に研究科において記入する。
2. 国籍は、外国人のみ記入する。



看護学研究科

審査結果の要旨

審査対象者 平野 美樹

地域包括ケアを推進しているわが国では、急増する高齢心不全患者がセルフケアを自宅で適切に行い、増悪の予防に努めることが求められている。高齢心不全患者自身による適切なセルフケアの実施は困難な場合が多く、介護者による支援が欠かせない。しかし、患者への支援に介護者が負担を感じている実態もあるため、看護職による介護者への支援は重要である。

本論文は、1) 我が国における心不全患者の療養生活を支援する介護者は、介護をどのように評価しているのか、および介護評価に影響を与えている要因は何か、2) 心不全患者の介護者の介護に対する肯定的な評価を高められる効果的な看護介入にはどのような方法があるのか、を明らかにしたうえで、心不全患者の介護者に対する教育プログラムを構築することを目的として実施した研究成果をまとめたものである。具体的には、心不全患者の介護者の介護に対する肯定的、否定的評価に関する横断研究において、介護者の介護に対する肯定的評価は、介護者の健康関連 QOL のうちの「身体的側面」との関連が、否定的評価は、介護者の健康関連 QOL のうちの「精神的側面」や「心不全患者への疾患管理に関する活動の支援の頻度」等との関連が認められることを明らかにした。また、心不全患者の介護者における介護に対する肯定的評価を高める介入方法、否定的評価を低下させる介入方法を明らかにすることを目的としたシステマティックレビュー（以下、SR）では、Information and Communication Technology を活用した介入、教育と心理社会的支援を組み合わせた介入等が介護者の介護負担の軽減、および在宅療養支援に対する自信を増進させる可能性があることを明らかにした。これらの研究結果等を踏まえ、心不全患者の介護者へのセルフケア支援教育と Social Network Service を用いた相談支援で構成され、介護者の理解度を確認しつつ教育を実施するティーチバック法を教育方法として採用した介護者への教育プログラムの原案を作成した。このプログラム原案の内容妥当性と実施可能性について、便宜的抽出法により心不全看護、ならびに在宅看護を専門とする看護師各 4 名を選定し、オンライン形式でフォーカスグループインタビューを実施した。その結果、教育プログラム全体の構成は妥当と判断されたが、フォローアップ期間の延長、教育用資材の内容を介護者側の目線で記載する必要性、ならびに、介護者のレディネスにあわせた教育内容を取捨選択する必要性があるとの見解が示された。これらを踏まえ、フォローアップ期間を 4 週間から 12 週間に延長し、教育用資材を介護者の目線にあわせた内容で統一した。さらに、教育を実施する前に心不全の知識尺度を用いて介護者の教育レディネスを把握すると共に、知識不足から生じる療養生活上の問題点を確認することを追加し、教育プログラムとした。

適切な手順で行われた横断研究と SR 等の結果に基づき構築した上述のプログラムは、これまでの研究で焦点が当たることが少なかった「心不全患者の介護者の介護に対する肯定的評価」に着眼しており、この点に独自性と発展性が認められることから、提出された論文は看護学の発展に寄与する学術上の価値が高い論文であると評価できる。そのため、学位審査委員会では、本論文は博士（看護学）の学位授与に値するものと認める。

[別紙 3]

試験結果の要旨

審査対象者 平野 美樹

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。